

ビオトープ

技術概要

“ビオトープ”とは、広義には、自然生態系そのものを指すが、最近では、生物多様性の維持や、都市住民と自然とのふれあい創出等を目的に、都市域に人工的に生物（植物や魚、昆虫等）が共存するために作り出した空間を指す事が多くなっている。なお、ビオトープの語源はドイツ語で、B i o は生物、T o p e は、空間、場所を指す。

新都市での導入効果について

新都市では、生態系の回廊を作るイメージでビオトープを導入することで、周辺自然との生態系の連続性を確保し、地域の生態系保全に寄与することができる。また、都市の中で自然とふれあえる空間を再現することで、都市住民が身近な自然共生型のライフスタイルを体験することができ、環境意識の醸成に資する。

導入における課題（ 対応策 ）

都市計画と地域の自然生態系の保全計画を有機的に連携させることが課題。

新都市の設計の際には、都市計画、自然保全の専門家に加え、地域の自然を熟知した地元の関係者等を参画させることで、地域の自然特性に合致した都市計画を実現する。

その他（ 導入状況・技術開発等動向・将来見込み等 ）

環境汚染や土地開発により生物多様性がますます危機にさらされている今日、動植物の生命が生息する場所を保全したり、人為的に復元するビオト - プ創出の動きが高まってきている。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成